# 人生と社会を左右する乳幼児期のケア

## ユニセフ シンポジウム

2016年

**12月4日（日） 14:00～16:00**

**国連大学ウ・タント国際会議場（東京都渋谷区）**
**[日英同時通訳付]**

unicef 70 YEARS FOR EVERY CHILD

胎児期を含む乳幼児期の子どもの発達（Early Childhood Development＝ECD）に関わる施策の普及と官民の投資を訴えるユニセフの世界キャンペーンを推進するシンポジウムに、先着360名様を無料でご招待いたします。

| | |
|---|---|
| **基調講演** | **「世界を変える子育て ～ユニセフECDキャンペーン Why? What? 」**（仮題）<br>**ユニセフ本部ECD専門家　エドゥアルド・ガルシア・ローランド** |
| **パネル ディスカッション** | **公衆衛生医、大阪府立母子保健総合医療センター・母子保健情報センター長　佐藤 拓代**<br>**杏林大学医学部客員教授、元日本小児科学会会長　別所 文雄**<br>**臨床心理士、日本プレイセラピー協会理事、日本ユニセフ協会東日本大震災緊急支援本部心理社会的ケアアドバイザー　本田 涼子**<br>**ユニセフ本部ECD専門家　エドゥアルド・ガルシア・ローランド**<br>**コーディネーター：　ユニセフ・アジア親善大使　アグネス・チャン** |

※敬称略
※登壇者は事前の予告なく変更される場合がございます。予めご了承ください。

## ケアの質が人生を左右する

人の脳が飛躍的に発達する胎児期から6歳までの時期が、一生を左右するかけがえのない時期であることが、近年の研究で明らかになってきました。健康や栄養面での適切なケアとともに、好奇心を満たす刺激を与えるなど、子どもの成長段階に応じて情緒や社会性の発達に配慮したケアと教育の機会を提供することが、後の人生で子どが生まれ持った可能性を開花させるために必要な“基盤”をつくるうえで、非常に大きな役割を果たしています。

## 日本にも関わる国際課題

昨年9月、国連は「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals =SDGs）」を採択。ECDも、この新たな開発目標に位置付けられました。国内でも、「待機児童」や「子育て」が大きな社会問題となり様々な対策も講じられています。しかし、2013年のユニセフ『レポートカード11』は日本の低体重児出生率は先進31か国中最悪で1970年代後半から2000年代後半にかけ倍増した特異なケース」と指摘。待機児童問題等についても「おとなの都合」が先行し、「子どもに必要なこと・もの」という視点に立った議論はまだ限定的です。

## SDGs 推進の要

ECDは、医療や栄養、貧困、暴力など、SDGsの他の課題とも密接に関連します。
本シンポジウムでは、
ユニセフ本部でECD世界キャンペーンを統括するチームの専門家のほか
国内の医療、福祉、災害などの現場で活躍されている方々をパネリストにお迎えし、日本を含めた世界の子どもたちの成長と発達、そして日本社会と国際社会の持続可能な有効な“処方箋”の一つでもあるECD関連施策の強化と“投資”の在り方を議論いただきます。

**[会場]** 国連大学ウ・タント国際会議場（東京都渋谷区神宮前5-53-70）
JR 渋谷駅より徒歩約 8分
地下鉄表参道駅出口B2（銀座線、半蔵門線、千代田線）より徒歩5分

**[定員]** 360名　※入場無料（事前にお申し込みいただいた方を優先させていただきます）

**[主催]** 公益財団法人 日本ユニセフ協会　**[共催]** UNICEF東京事務所

**[お申込み]** 日本ユニセフ協会ホームページ　www.unicef.or.jp　お知らせ

**[お問い合わせ]** 日本ユニセフ協会　広報室
電話： 03-5789-2016
E-mail：event@unicef.or.jp

unicef
70 YEARS FOR EVERY CHILD